

# きららとちぎ

編集／きららとちぎ編集員（栃木市男女共同参画地域推進員）

発行／栃木市生活環境部 人権・男女共同参画課

〒328-8686 栃木市万町9番25号 TEL 0282(21)2162 FAX 0282(21)2692



栃木市  
マスコットキャラクター  
とちぎ

## 男女共同参画社会の実現に向けて

### 大川秀子市長にお話を伺いました

#### 1 市長になろうとした動機

子育てと仕事の両立を支援する働く女性の立場で、女性の地位向上のためのプランの委員に参加したことが、議員としてのスタートです。

市議として5期19年勤め、引退も考えましたが、市長にとの要請と、合併に8年間関わり広範囲になった端から端までの地域住民のために頑張ろうという使命感から市長に立候補しました。



#### 2 市長として、市政の運営、方向性をお聞かせください。

一人ひとりが栃木市を愛し、誇りに感じる市民を増やしていきたいと考えています。

渡良瀬遊水地の中には、日本で一番大きなハートの形があるように、ハートのある街をつかっていきたいと思っています。

市長になっても、市民の目線を忘れないでいようと考えています。



#### 3 女性議員を増やすためには、どのようなことが必要とお考えですか。

国の政策でもあるし、制度上整っていると思います。

女性の意識を変えて、女性を応援できる仕組みと、立候補しようとする、しっかりと判断のできる女性を育てる環境が必要です。

#### 4 家庭の中で、男女共同参画をどのように実践されていますか。

今、7人家族で住んでいます。家族の理解があり、市長として家の中の心配がなく、活動できるよう支えられています。

日々の生活の中から見えてくる、身近な問題が政治であると考えています。



# 男女共同参画

## ワーク・ライフ・バランス

男女が家事・育児・介護等について、助け合いながらともに仕事と生活の調和を図り、その両方を充実させる働き方・生き方のことです。

ワーク・ライフ・バランスを推進する過程で、現状を4人の異なる立場の方に伺いました。



### 20代女性

- ① 夫、9ヶ月男児
- ② 私は出産で退職、復帰を希望  
夫は会社員
- ③ 私が主、夫は良く面倒を見てくれる
- ④ 知らない
- ⑤ 育児休業を夫は取っていない  
・家事・育児は2人でやるように、企業の理解が必要

### 50代男性

- ① 妻、大学生、中学生男子
- ② 会社員、残業が多い  
妻はパート、1日3時間勤務
- ③ 妻が大部分
- ④ 言葉は知っているが、内容はよく知らない
- ⑤ 育児休業は二人とも取らない  
・消防団員など地域で活動  
・地域行事にも参加



### ～インタビュー～

- ① 家族構成
- ② 職業
- ③ 家事・育児
- ④ ワーク・ライフ・バランス
- ⑤ その他



### 40代女性

- ① 夫、両親
- ② 教員
- ③ 母親が主に行っている
- ④ 知りません。学びます
- ⑤ 「遊び学びキャラバン隊」に参加  
・職場では男女平等に感じるが、管理職は男女差がある。中学校以上の校長は大多数が男性

### 70代男性

- ① 妻、母
- ② 定年退職後家庭菜園
- ③ 主に妻
- ④ 知っている。生き方に関心あり
- ⑤ 介護を分担。ベッドから車イスに移すなど  
力仕事は私、下の世話は妻  
・介護施設利用は週4日  
・趣味（ゴルフ、音楽サークル）



### インタビューから

- ・若い人は、男性も家事・育児に参加していますが、その割合は、まだ少ないようです。
- ・「ワーク・ライフ・バランス」を知らない人が多いので、啓発活動の必要性を感じました。
- ・趣味やボランティア活動等積極的に参加している人もいます。

わが家は夫が先にリタイアしたため、数年前から妻が仕事で夫が家事と夫婦の役割が逆転していたが、夫の努力に私が甘えている状態は旧来の役割分担意識が単に逆になっただけだったのだ。  
退職したこれからは私が意識改革をする番のようです。

父親が仕事も生活も主体的に選択し、それを見事に調和させている。まさにワーク・ライフ・バランスを体現していることに驚き、それに驚いた自分の中にあつた、男女平等についての思い込みにも気付いて愕然とした。

出産時を除いて足掛け四十年近く仕事を持っていた。思えば関わってきた仕事の変化と共に生活も大きく変化し、独立した子どもを含めた家族の関係や考え方も大きく変わってきた。それでも先日終了した今年度のとちぎ男女共生大学で聞いたファザーリング・ジャパンの塚越氏の講話には目を見張った。

### わが家の男女共生

男女共生大学受講生 青木 三千代

# 推進の環境づくり



## 各世代への啓発

### 平成30年度「とちぎ市男女共生大学」

8月22日(水)

市役所正庁で「とちぎ地域で活躍する子育て世代」と題して、フリーペーパー「TOCHICO日和」編集長 松本真由美さん、嘉右衛門町で「ヒト匙十」を経営する藤原順子さん、「とちぎ市民活動推進センター くらら」の大波龍郷さんに発表していただきました。



「とちぎ地域で活躍する子育て世代」の講演で、3人の活動を知る事ができました。

人々に温かい情報を届けている松本真由美さん。  
地域の人たちの集いの場所作りやイベントに協力している藤原順子さん。

市内の空屋を再利用して地域に根付いた商い等を提供している大波龍郷さん。

皆さん、世代を超えて充実した活動をされていて輝いていました。

明日を見据えた活躍に生き生きとされていました。私にも輝いて生きる何かができそうだという事に気付かせてくれた「とちぎ市男女共生大学」に感謝です。続けて勉強したいと思いました。

男女共生大学受講生 今井美枝子

## 出前講座

### 「高校生向けキャリアデザイン講座」

7月3日(火)

栃木県立栃木農業高校で、(有)フェードイン代表 工藤敬子さんに、「第二の人生を活かすワーク・ライフ・バランス～新時代に向けて働き方、生き方をデザインしよう～」と題して、講演していただきました。



## 高校生の感想

工藤先生のお話を聞いて、何より自分の頭で考えることが大切なのだと分かりました。そのために幅広い教養を身につけることが必要です。その上で、目的をしっかりと持ち、それに応じた柔軟な努力をすることで、予測不能な未来に向かって、自分の人生をしっかりと生きて、幸せをつかめるのだと思います。



「人間は何のために生まれて来たのか？」という問いの答えは「幸せになるためである」という当たり前のことに、改めて工藤先生のお話を聞いて気付きました。そのために、ライフプランが必要であり、経済的自立が大切なのです。働くだけではなくて、自分の時間を大切にすることによって、生きがいが見つかるのだと思います。







# とちぎ市男女共同参画のつどい

6月30日(土) 栃木公民館にて

## 第1部 記念式典

- ・男女共同参画標語コンテスト表彰
- ・標語発表

## 第2部 よさこい演舞

- ・さんきつずぷらすの皆さん

## 男女共同参画標語コンテスト優秀作品 (敬称略)

栃木市内の小学校5年生、応募総数641点の中から、以下の6点が最優秀賞・優秀賞に選ばれました。

	標 語	氏 名	学 校
最優秀賞	男だから 女だからと おし付けしないでね ぼくはぼく	大森 一輝	吹上小
優秀賞	個せいは宝 大切に育てて だれもが主役	渡邊 磨世	栃木第三小
//	ぼくもなる 仕事も家事も できるお父さん	黒宮 大幸	栃木第四小
//	一人一人のちがった色で 大きく咲かそう 笑顔の花	押山 理愛	寺尾小
//	すてきだね! パパ ママ なかよく 家事 育児	五十畑 穂萌	大平中央小
//	みとめ合い 男女でつなぐ 社会の輪	石川 結奈	合戦場小

## ◎栃木市PTA連合会栃木西部ブロック研修会

11月30日(金) 寺尾公民館にて

「人と人とのより良い関係とは? ~デートDVについて考えよう~」をテーマに、ウイメンズハウスとちぎカウンセラー 藤平裕子さんを講師に招いて、研修会が行われました。



### 受講者の感想

- \* 暴力は、一度でも許されないこと。様々な状況や人間関係の中で悩む方が多いことを理解。
- \* デートDVの被害が女性の約5人に1人もいると知り、大変驚きました。自分の子供達や学校の子供達が被害に合わないよう、平等な関係を築けるよう見守っておかしなところは助言できる大人でいたい。
- \* 被害者は、「自分に非がある」「自分のために叱ってくれている」と思う場合もあるが、「おかしい」と気づくことが大切。正しい認識を広めることや相談機関・相談体制の整備を急ぐ必要があると思う。
- \* DVについて、正しく知ること、身近におこり得ることと改めて理解できた。今後良き相談相手となれるよう努めたい。

## DVに悩んでいるあなたへ 相談してください

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や交際相手など親密な関係にある男性から女性へ(女性から男性へ)の暴力をいいます。

DVで困ったときは、ひとりで悩まず、ご相談ください。

とちぎ男女共同参画センター相談ルーム  
 栃木警察署  
 栃木市配偶者暴力相談支援センター

☎ 028-665-8720  
 ☎ 0282-25-0110  
 ☎ 0282-21-2218



女性に対する暴力根絶のための  
シンボルマーク

## 編集 後記

今回の9号より紙面を一新しました。より読みやすく、また、男女共同参画について分かりやすくという事を心掛けました。  
 今後も真の男女共同参画社会づくりに向けて、努力していきましょう。



※氏名については、敬称略で表記しました。